

## 閉会のあいさつ

---

湯澤 伸 夫 (宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター長、国際学部教授)

本日は、休日にもかかわらず、ご参加いただきありがとうございました。大久保先生、森田様、Kiss先生、Salk先生、素晴らしい講話をありがとうございました。日光の豊かな自然や歴史、持続可能なツーリズム、騒音や車両増加の環境問題とその解決法、こうしたことに関する知識をたくさん得ることができました。また、日光プロジェクトに参加した学生の皆さん、興味深い具体的な提言や解決案をたくさん提供いただき、ありがとうございました。また、伊東様、包括的で詳細なコメントをいただき、ありがとうございました。

日光は、中禅寺湖、華厳の滝、竜頭の滝、戦場ヶ原、湯ノ湖など自然豊かな地域で、栃木県だけでなく日本、そして世界にとって大切な宝です。冬には寒さが厳しい環境でしたが、古くから人々が住み、その史跡も残っているとのことで、勝道上人がいらして以来、山岳信仰の聖地として発展し様々な文化も生じてきました。

日光の聖地としての特徴として神仏習合があります。神道においては、二荒山神社を中心に、山に父・母・子の家族を見えています。男体山が父、女峰山が母、太郎山が子となります。一方、仏教においては、輪王寺が主要な役割を果たし、そこには千手観音、阿弥陀如来、馬頭観音が祀られ、それぞれ3つの山と対応しています。男体山が千手観音、女峰山が阿弥陀如来、太郎山が馬頭観音です。神仏習合としての文化的特徴はこうしたところにも見られます。徳川家康が祀られている東照宮もあります。

こうした古来からの聖地としての日光を持続可能な地域として維持・発展させるためには、観光は重要な収入源であることは言うまでもありません。しかし、観光により様々な環境問題が生じるという負の側面もあります。いかに環境を守りながら、年間を通じて、日光を多くの人々が集う素敵な地域にし続けていくことが今後とも続く重要な課題です。本日の機会を通して、我々は貴重なヒントを得ることができたものと確信しております。

このシンポジウムの開催にあたり、日光市の皆様をはじめとして、多くの方々のサポートをいただきました。厚く御礼申し上げます。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。以上で、本日のシンポジウムを終わりにいたします。